

2024 年度「豊寧植林地」 視察報告

地球緑化センター 中国事務所長 郝建国

1. 視察日程：2024 年 9 月 29 日（木）～31 日（土）

29 日（木） 09:00 フフホト出発

17:40 豊寧ホテル着チェックイン、現地人 4 名と合流

18:30 会食、スケジュール打ち合わせ

20:30 解散 就寝

30 日（金） 08:00 ホテル発 植林地へ出発、

08:30 植林地到着

午前中は街の北部の植林地を視察

① ラマ山口一帯に展開するトヨタ自動車援助の「21 世紀中国首都圏環境緑化拠点モデル」

② 小バーズ村の海子溝（油松）

③ 小バーズ村の遺跡周辺（油松・山杏等）

④ 土城鎮四間房村にある日中友好会館の油松

午後は、街の南部の植林地を視察

① 満堂村にある電機連合（第一期）の油松

② 南二宮村にある電機連合（第二期）の油松

19:00 現地人と夕食、解散 就寝

31 日（土） 08:00 朝食後 帰途へ

2. 視察者：郝建国（地球緑化センター中国事務所長）

3. 現地側出席者：王建利 豊寧林業草原局 局長
羅漢傑 豊寧林業林草局 副局長
王国枫 豊寧林業林草局 副局長
廉詩啓 豊寧林業林草局 総務課長

4. 植林地の概況

ここ 2～3 年は年間降水量が低下している。樹高 2m 以上の生育の良い苗木や蒸散量の少ない箇所のものには影響はなかったが、風当たりの強い斜面や蒸散量の多い箇所に植えた苗木は、特に樹高 1.5m 程度の比較的小さいうちに枯死するものもあった。補植を行い、活着率には影響しないように管理に力を入れてきました。今年の降水量は例年よりもだいぶ多く、全体的に青々と元気に育っています。

一番印象的だったのは、2000年頃に植林したラマ山口のポプラ林と2009年～2011年に植林した電機連合の森で、大きな石碑まですっかり隠れるほどに苗木が大きく成長していることでした。

5. 生育状況、活着率について

活着率は全体的に95%と大変高い。というのも、一旦植林した以上は、今後また早魃で枯れたものが出て補植をしていく計画があるということでした。個体ごとに樹高を測量することはとてもできないそうだが、小バース村の植林後10年以上の松は平均樹高3.5m（当時は30cmほどの小さい苗木を植林）、ラマ山口のポプラ林は平均樹高15mと順調に生育してる。

A：小バース村海子溝-1 撮影 2024.09.30



豊寧縣市街地の北の小バース村へ進むとの上記の斜面の風景が展開します。上記画像は、小バース村の海子溝油松植林地に近い斜面で、油松の植林と放牧管理と「封育」（砂漠化の山の斜面を柵などで囲い込み、家畜の侵入を防ぐようにすること）等の対策で「植生の回復」が目立つ。手前の平地にはトウモロコシ畑が広がっている。

B：小バーズ村海子溝-2 撮影 2024.09.30



道路脇の井戸小屋

C：小バーズ村海子溝-3 撮影 2024.09.30



緑の親善大使で植えた油松の植林地。手前の樹高の低い苗木は、家畜の侵入による食害の影響により生育が悪い。監視員の目が届かない時に侵入されたものだが、通り道に面したごく一部のみで、全体としては、ご覧のと通りの緑の山の風景に変貌している。

D：ラマ山口-1 撮影 2024.09.30



ラマ山口の川と山裾の間に植えられたポプラと灌木。第0回緑の親善大使（視察団）の植林ボランティアの方々と現地人の100人以上の合同植林作業で植えられたもので、ポプラは平均6mと高く、10mと大きいものもあるという。川の近くで水分条件の良い場所のため、広葉樹でも元気に生育している。

E：ラマ山口-2 撮影 2024.09.30





E.F 土城鎮ラマ山口にある植林事業の記念碑のバックの川原に植えられたポプラ林。Dの場所と同じく条件の良い場所なために、ポプラが元気に育っている。

7. 総評

大規模な植林事業によって、風や黄砂が軽減され村の生活環境も良くなり、地域の住民にも大変喜ばれている。現在は、中国政府が推進する土地政策が植林緑化事業から農業重視に転換している。本来ならば植林しなくてはならない山の斜面でも植林事業の推進はストップさせられ、今後数年間は植林できないこととなっているが、一旦それが解除すれば、今までのような植林協力事業が復帰する可能性はあるだろう。

今後も植林地の維持管理はこれまで通りに実施される方針で、病虫害の被害は全く見られないため、家畜の侵入と森林火災対策を継続していく予定となっている。